

終末魔法世界マジカル
☆アポカリプス

ぐっちSKG

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

一般魔法少女とお供のマスコットが、魔法少女の聖地を旅行する話です。

目次

終末魔法世界マジカルランド | 1

終末魔法世界マジカルランド

むかしむかし、いやむかしむかしよりももつともつと、むかしのおはなし。

せかいには今にはないふしぎな、ちから、が溢れていました

、ちから、をもつみんなはそれを使い、沢山のことをしました

お花をそだてたり木をおおきくしたり、おいしいごはんを作ったり

、ちから、をやさしいことに使い、みんなをニコニコえがおでくらししていました

その、ちから、をみんなは、まほう、と呼びました

そんなへいわなせかい、マジカルランドではいちねんに一度のおまつりがありました

みんなはお姫さまをひと目みよう、とおしろを見ました

せかいでいちばんのうつくしいお姫さまがおしろから手をふると、まほうのひかりが

空にあふれ、おおきくてきれいなじがかりました

みんなはおおよろこび うつくしいお姫さまをたたえます。

ありがとう ありがとうお姫さま うつくしいお姫さまありがとう

しかし、そのときかみなりの音がなりました

そしてはれやかな空はくらくらくにおおわれます

かみなりはマジカルランドになんども落ち、ひとびとに呪いをかけます
マジカルランドでこんなことをするのは沼のまじよくらいです

お姫さまはみんなが傷ついたことを悲しみ、沼のまじよにききます

「みんな やさしいひとばかりよ こんなことはやめて」

沼のまじよはわらいます

「おお お姫さま なんにもしらぬ お姫さま」

けたけたとわらう沼のまじよ

「おそろしい わたしは おそろしいよ なんにもしらぬまま きえてしまおうほうが
あわせさ」

沼のまじよははわらう

わらう

わらう

お姫さまをわらう

お姫さまはおこります

お姫さまは沼のまじよをついほうしようとしみます

お姫さまのひとびとに手をむけました。まほうの光がきらめくと、ひとびとのろい
がとけました

お姫さまはそらに手をむけました。空ははれ、にじがまたかかりました

お姫さまは沼のまじよにてをむけました。魔法はどこかへときえてしまいました

まほうを わるいことに つかつてはいけないよ

お姫さまが おこって しあわせな マジカルランドから おいだされちゃう か

らね

わるいまじよ みたいにね

むかしむかし、いやむかしむかしよりもつともつと、むかしのおはなし。

—やさしいお姫さまとわるい沼のまじよ—より抜粋

魔法歴20XX年!!魔法少女の聖地とも言えるマジカルランド!

平和で退屈極まりないこの世界は、ある1人の愚か者が放った大破壊魔法の影響により、星の3分の1ほどが焦土となった!!森は焼け!海は逆巻き!大地は裂けた!魔法の力の源たるマナは枯れかけている!

火山灰のように舞い上がった粉塵は、大地を覆い尽くし!あらゆる作物は枯れ果てた!もはやこの星は人が住む環境ではない!

あらゆる動物は死に絶え、もはや人々も息絶えたのか・・・?

いや違う！魔法の力でしぶとく生き残っていた少数の魔法少女は！数少ない物資を巡って争いを続けていた！

ほら今も！荒れ果てた道を一人の少女が魔導バイクに乗って、ほうほうのていで逃げる男を追い回している！

まるで獲物を甦るかの様に！付かず離れず追い回す！男が力尽きるまで！

残虐！非道！だがこれは決して珍しい光景ではない！

この世紀末において！魔法の力を持つ者は絶対なのだ！

力を持つものは持たざる者から奪って良い！鬻ってよい！殺してもよい！

それがこのマジカルランドの唯一の法！

なにかあろうと弱い者が悪い。弱者は強いものに喰われるのが当然なのだ！

「アハハハハハ!!ほらほらあ!!頑張らないと死んじゃうよおお!!」

「ひいひい、お助け、お助け下さい!!」

ついに力尽き倒れ込んだ男。

小便すらたらしながら命乞いをする。土下座をし、少女の靴すら舐めた。

少女は男の大事そうに抱え得ていた荷物カバンを、指先から放った魔法の刃で切り裂

く。

「ぶっ！何これ！絵本?!こんなものはね！この時代じゃ便所紙にしかないんだよ

！」

男の思い出の品なのだろう。大事そうに本を抱き抱える男はやけくそ気味に激昂する。

「あ、あなたはマジカルランドの魔法少女なんでしょう!?!こんなこと許されるはずがない!」

「はアアア!?!何言ってるのこのメルヘン野郎!わたしはなんでも許されるんだよ!!見てしろよ!ほら!」

少女の両手から力を誇示するように炎が吹き出す。まるで生き物の様にのたうつ様は明らかに自然現象ではない。

男は本を腹に抱えたまま、頭を抱え屈み込む。

「このわたしに生意気言った罰だ!表面だけこんがり焼いてやるよ!ほら燃えちまいな!」火蜥蜴の舌!」

男の命乞いを無視して、少女は生き物のようにのたうつ火をけしかける。

「あははは、踊れ踊れ!!愉快に踊れば消してやるかもしれないぞ!」

身体に絡みつく火を手で振り払い、なんとか消そうとあがく男を嘲笑うかのように、男は黒く炭化していく。

少女は男が立てなくなり、呼吸しかできなくなるまで嘯る。

「ほら一丁あがり。肺は焼いてないからなかなか死なないんだよ。せいぜいゆっくり楽しんでね」

少女は男の荷物を漁り、水と食料や貴金属を抜き取って魔導バイクで走り去った。

この物語はもう終わってしまった魔法の世界の物語。そして主人公は・・・

「あ、あああ貴方わたしを騙したのね！なにが魔法の国よ！なにが魔法少女の聖地よ！ぜんっぜんイメージと違うじゃない!!」

「おっかしいなあ!!おっかしいよね！そっちの世界に行く前はこんなじゃなかった筈なんだけども!!もしかして時間軸がずれちゃったのかも！」

異世界・・・地球から旅行気分で行ってきたどこにもいる普通の魔法少女！そしてそのおともものマスコット！

「お腹すいた・・・貴方を焼いて食べるわ」

「やめて!!」

この終わってしまった世界で、地球への帰還方法を探せ！